

働 き な が ら 学 べ る



武庫川女子大学大学院

男女
共学

看護学研究科看護学専攻

Mukogawa Women's University
Graduate School of Nursing

修士課程

看護学研究コース

看護学研究保健師コース

(保健師国家試験受験資格取得コース)

博士後期課程

看護の質を向上させる 思考力・研究力を育てる大学院



たからだ
寶田 穂 研究科長

看護を共に考え追究し、看護実践や教育の場に、その成果を還元しませんか。
本研究科では、看護実践や教育の場で活躍できる人材の育成をめざしています。また、保健師国家試験受験資格を得られるコースもあります。これまでに本研究科で72名が修士を、17名が博士の学位を取得し、現在は臨地や教育の場で活躍しています。学生のほとんどが、看護職として働きながら学習・研究をすすめており、本研究科は、様々な看護の場で問題意識を持ちながら実践している看護職者が集う場ともなっています。教員も現場での問題意識を持ち続けています。複雑・多様化している看護を追究するにあたり、互いの交流を通しての学びは掛け替えのないものと考えています。

大阪大学医療技術短期大学部を卒業後、精神科・救命救急にて看護師として勤務。専門学校や短期大学での教員、単科精神科病院での看護師としての勤務を経て、大阪市立大学看護短期大学部の教員となり、医学部看護学科、大学院看護学研究科前期・後期博士課程への改組・設置に携わり、本学看護学部・看護学研究科の設置準備室から現在に至る。博士(看護学)

『看護学研究科の特色』

01 看護実践活動を継続しながらの学習・研究を可能にする夜間と土曜日開講

働きながら修学できるように、修士課程看護学研究コースと博士後期課程は平日夜間と土曜日に開講しています。看護実践の場での研究をサポートします。修了年限を延長できる長期履修制度もあります。

03 学生の研究テーマに応じた複数の教員からなる指導体制

主指導教員1名と副指導教員(修士課程1名、博士後期課程2名)を中心に、すべての教員が看護学分野の枠を越えて研究活動を支援します。複数の教員が多様な視点から助言することにより、視野を広げ、研究を発展させていくことができます。

02 充実した授業と研究の連動により実践力と施策力を有する質の高い保健師の養成(修士課程看護学研究保健師コース)

保健師の活動の基盤となる家庭訪問を重視した実習や、都市部と山間部での実習などにより、実践力を培います。また、地域の健康課題を解決する糸口を探る研究を行い、エビデンスに基づいた施策が提言できる能力を養います。

04 総合大学ならではの学際的な視点

武庫川女子大学大学院には臨床心理学専攻や臨床教育学専攻など、看護学と深く関連した領域の研究科があります。修士課程では他の研究科開講科目の一部は履修可能なため、学際的な視点で研究を深めることができます。

『看護学研究科の構成』

博士後期課程(定員5名)

修士課程(定員15名)

看護学研究コース(定員9名程度)

看護学研究 保健師コース(定員6名程度)

【生涯発達看護学領域】

成人慢性看護学分野

成人急性看護学分野

小児看護学分野

母性看護学分野

【広域実践看護学領域】

基礎看護学分野

在宅看護学分野

老年看護学分野

精神看護学分野

公衆衛生看護学分野

修士課程

「経験知」を「理論知」に進化させる修士課程

「育成する人材像」▶▶ 看護学研究コース:実践の場での調整力や指導力を発揮できる人材
看護学研究保健師コース:上記に加え、保健行政への参画力を有する保健師



ディプロマ・ポリシー／卒業認定・学位授与の方針

「育成する人材像」に基づく以下のような能力・資質を備え、課程修了が認定された者に修士の学位を授与します。

1. 専門領域における幅広い専門知識と理解力を身につけている。
2. 看護の臨床現場で生じている課題の解決・改善に向けての研究を実施し、公表できる。
保健師として、複雑困難化している健康問題に対応できる。(保健師コース)
3. 臨床現場で生じている課題を科学的・論理的思考に基づいて解決する方法を見出すことができる。
4. 看護実践、看護教育、看護研究の発展に寄与するように、自らの実践能力を向上していくことができる。
5. 保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を尊重し、メンバー間の協働や連携を促進することができる。
6. 地域の健康課題を解決する方策を探索し、施策の企画、立案、実施及び評価が行える。(保健師コース)

アドミッション・ポリシー／入学者受入れの方針

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。

1. 本学の理念、本研究科の教育目的・目標を理解し、社会的・国際的な視野にたって人々の健康と福祉の向上並びに看護学の進展に寄与したいという意思をもつ人
2. 自身の経験知をもとに、自身の問題意識や課題を表現できる人
3. 実践を通して課題を見だし、改善や発展に向けて、研究的視点を持って課題を追究していくことのできる人
4. 自身の考えを明確にしつつも、他者の意見を聞くことができ、柔軟な思考で考えを発展させていくことのできる人
5. 地域住民の健康に関心を持ち、健康課題の明確化とその解決に向けた実践を通して、将来保健師として社会貢献する意欲のある人(保健師コース)

カリキュラム・ポリシー／教育課程編成・実施の方針

修士課程では、経験知を理論知に進化させる学年積み上げ方式の教育の方針に基づき、

①論理的思考力、②研究能力、③問題・課題の発見・言語化能力、④広い視野での考えに基づく発想力を育成するカリキュラムを編成し、共通教育科目、専門教育科目、公衆衛生看護学科目、特別研究を配置します。

博士後期課程

理論知に裏付けられた経験知から新たな理論知の創生を目指す博士後期課程

「育成する人材像」▶▶ 臨床現場や教育機関など、看護実践の場で教育研究能力を発揮することができる人材

ディプロマ・ポリシー／卒業認定・学位授与の方針

「育成する人材像」に基づく以下のような能力・資質を備え、課程修了が認定された者に博士の学位を授与します。

1. 社会の変化に対応した看護を推進するために、経験知から新たな理論知を創生し、看護実践と研究の連続的なスパイラルの中で思考・実践できる研究能力を有する。現任教育や看護学実習教育を担うことのできる教育研究能力を有する。
2. 看護学の発展に貢献するために、研究結果を学術集会や社会活動に発信し、それらの成果を実践の場に伝えることができる発信力と教育能力を身に付けている。
3. 社会の変化に対応した看護を推進するために、経験知から新たな理論知を創生し、看護実践、看護教育と研究の連続的なスパイラルの中で思考に基づいて解決する方法を見出すことができる。
4. より幅広い視野で見識を深め、統合力・連携力・創造力と看護職のアイデンティティを基盤として、教育研究活動を個人の志向により自立して実践することができる。



アドミッション・ポリシー／入学者受入れの方針

ディプロマ・ポリシーをふまえ、次のような資質を有する意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 経験知を理論知に進化させ、理論知を実践に活用・発展させていくことのできる論理的思考を身に付けた人
2. 看護実践の場での課題を見だし、研究活動を継続していくことができる基礎的能力を有する人
3. 看護実践の場での調整力や指導力を発揮し、看護実践及び教育活動ができる能力を有する人
4. 看護実践及び教育での活動を通して、看護学の発展に寄与できる能力を有する人

カリキュラム・ポリシー／教育課程編成・実施の方針

博士後期課程では、共通教育科目・専門教育科目・特別研究の3つの科目区分とし、論理的な思考を熟練させ、個々が抱いていた問題や課題を追求してエビデンスや理論を検証し、創生することによって新たな理論知を創り出し、それを社会に発信できる統合力・連携力・創造力を育成することができる教育課程を編成します。

教員のご紹介

生涯発達看護学領域

主として生涯発達の視点での対象および家族を理解し、現代社会

において、様々な発達段階にある対象への看護上の課題を見出す看護学領域

成人慢性看護学分野

病いとともに生きることを支える援助を考える！



教授：
川端 京子
博士（看護学）

腎不全や糖尿病、がん化学療法を受ける患者などの療養生活を支援するための研究を行っています。



教授：
布谷 麻耶
博士（看護学）

炎症性腸疾患やがんなどの慢性疾患を有する患者の療養生活や意思決定を支える看護、セルフケアやセルフマネジメントに関する研究に取り組んでいます。

成人慢性看護学分野は、糖尿病やがん、難病などの慢性の病と共に生きる人々の療養生活を支える看護について考える分野です。皆さんが臨床で率直に感じる問題意識を多様な視点で吟味する方法を共に学び、問題の解決や改善に向けての研究を支援していきます。

成人急性看護学分野

急性期の患者さんや家族の健康と生活を支援



教授：
師岡 友紀
博士（保健学）

患者のQOL、周手術期看護、移植看護（生体移植、臓器提供）、クリティカルケアなど、治療を受ける患者の支援に関わる研究のほか、看護教育関連の研究にも取り組んでいます。



講師：
南口 陽子
博士（看護学）

がん患者の最期を迎える場の意思決定支援、がん治療後のリンパ浮腫のマネジメント、がん教育に関する研究に取り組んでいます。

周手術期看護、がん看護、移植看護、がん教育、看護教育（看護基礎教育、新任/現任教育）など、患者の支援や看護実践に関する幅広いテーマを受け入れます。急性期看護に限定せず受け入れ可能です。

小児看護学分野

成長発達過程にある子どもとその家族の看護



教授：
藤田 優一
博士（看護学）

小児の入院環境、転倒・転落事故、小児科外来での看護実践、父親の産後うつ、小児科の看護師の職務ストレスなどについて研究しています。



講師：
北尾 美香
博士（看護学）

乳児期から学童期の疾患を持つ子どもとその家族への支援、患者と家族のレジリエンス支援、育児レジリエンス支援などについて研究をしています。

子どもとその家族、小児看護を実践する看護師をテーマとした研究など幅広く受け入れ可能です。過去の学位論文テーマは、アレルギーがある小児とその家族の看護、小児の退院支援、口唇口蓋裂児とその家族の看護、乳児の母親の育児などです。

母性看護学分野

性と生殖に関するよりよい健康を目指して



教授：
本間 裕子
博士（看護学）

思春期の健康・リスク行動、特にジェンダーやセクシュアリティと健康との関連に関心があります。現在の研究課題は思春期女子のボディイメージとダイエット行動の変化です。



准教授：
浅野 浩子
博士（看護学）

ハイリスク妊娠や出生前診断など、周産期の母子と家族がもつ健康課題への支援、インストラクショナルデザインによる助産師、看護師の継続教育をテーマとした研究を行っています。

周産期看護やウィメンズヘルスなど、性と生殖に関する健康に関するものであれば、幅広く受け入れ可能です。過去の学位論文テーマには産後うつ、妊娠期の睡眠健康、更年期症状、妊婦のヘルスリテラシー、無痛分娩があります。

広域実践看護学領域

主として制度・施策と看護との関係について理解し、現代社会に

おいて、様々な健康状態にある対象への看護上の課題を見出す看護学領域

基礎看護学分野

看護実践の基盤となる看護技術・知識・態度の育成



教授：
久米 弥寿子
博士（看護学）

看護教育に関して、コミュニケーション技術や看護過程・看護診断過程、電子カルテに関する研究、現任教育の課題や実態に即したサポート体制のあり方の検討等を行っています。



教授：
片山 恵
博士（看護学）

看護技術を用いた症状緩和技術の開発・EBNの検証などを実験的な手法を用いて研究をしています。



教授：
清水 佐知子
博士（経済学）

限られた資源の中で患者・家族に質の高い看護を提供するための組織運営や人材活用方法、業務遂行、患者安全に関する研究をしています。



講師：
古川 亜衣美
博士（看護学）

新人期看護師の早期離職問題や人材育成に関心をもち、主に臨床現場での継続教育について研究しています。尺度開発や学習理論モデルの検証に取り組んでいます。

主に3つの分野で研究をしています。

- ①看護技術：看護師の身体的負担と患者の安楽性の検証やリラクゼーション作用の検証など
- ②看護教育：研修後の知識の定着や教育効果に影響を与える要因の研究など
- ③看護管理：コンピテンシーの獲得や経験学習、就業継続、キャリアビジョン形成に関する研究など

老年看護学分野

高齢者の健康の維持・増進のための看護の基礎を学ぶ



教授：
徳重 あつ子
博士（看護学）

高齢者の寝たきりや認知症予防のための看護ケアを中心に、超高齢社会の日本において、より良く生きるためにはどうしたら良いかという点に主眼を置いて研究を行っています。



講師：
岩崎 幸恵
博士（看護学）

看護技術に関することや、高齢者の褥瘡予防について、主に実験研究を行っています。特に、皮膚血流量に着目した研究を行っています。

高齢者の健康の維持・増進のための看護につながる幅広い視点で、研究を支援いたします。認知症高齢者の看護、介護負担の軽減、閉じこもり予防、アドバンス・ケア・プランニング等のテーマでの受け入れ実績があります。実験研究も歓迎いたします。

精神看護学分野

ケアからセルフケアへ 共に成長し合える援助関係



教授：
畑田 穂
博士（看護学）

精神保健看護の質向上をめざし研究に取り組んでいます。主として、アディクションに関連する看護や、看護職者のメンタルヘルス支援をテーマとした質的研究を行っています。



嘱託講師：
黄 智暎
修士（社会健康医学）

公衆衛生学の観点から依存症や健康格差に関する研究に取り組んでいます。

精神保健上の健康問題の背景は、複雑で多様化しています。複雑な現象を多角的・多面的に考える能力を、研究プロセスを通して修得します。病院や地域、施設など様々な場での精神保健看護や、看護職者のメンタルヘルスに関するテーマの研究を受け入れています。

在宅看護学分野

慣れ親しんだ自宅での療養生活を支える看護



教授：
新田 紀枝
博士（保健学）

訪問看護利用による療養者と家族への効果、訪問看護師による看護実践のプロセス・ケア技術の内容、家族看護に関する研究を行っています。



教授：
久山 かおる
博士（保健学）

在宅での看取りにおける看護師の役割、多職種連携の中の看護師の役割など、地域包括ケアシステムの中での看護職の役割に関する研究を行っています。



准教授：
早川 りか
博士（臨床教育学）

支援の難しい問題を抱えた家庭への多職種連携によるサポート体制の構築についての研究や、訪問看護師の困難感、訪問看護活動の支援体制についての研究をしています。

訪問看護、退院支援、地域の多職種連携、訪問看護師の教育などの在宅看護に関する研究を支援していきます。在宅療養者とその家族、在宅ケアに関わる看護職の研究だけではなく、訪問看護師の活動や多職種連携の支援体制に関する研究も受け入れ可能です。

公衆衛生看護学分野

すべての住民の病気の予防、健康の保持・増進への支援



教授：
和泉 京子
博士（保健学）

地域住民の健康増進およびQOLの向上に関する研究、特に成人期・高齢期の社会経済背景をふまえた生活習慣病予防・介護予防の研究に取り組んでいます。



教授：
金谷 志子
博士（看護学）

社会的マイノリティなど潜在的な健康リスクとなる脆弱性を持つ者らの健康課題の解決に関する研究、住民主導型地域保健活動に関する研究に取り組んでいます。



講師：
松井 菜摘
博士（看護学）

高齢妊産婦の妊娠期や育児期の体験を明らかにし、具体的な支援策を検討する等、主に母子保健に関する研究に取り組んでいます。

母子保健～高齢者保健、精神保健、難病、災害等、地域住民の健康に関するテーマを幅広く受け入れます。過去の学位論文には高齢者の孤独感と社会参加の特徴、自治体における災害時の保健活動マニュアル、高齢初産婦の育児不安および産後うつなどがあります。

大学院生からのメッセージ



修士課程 看護学研究コース 松尾 千恵美さん

兵庫県立リハビリテーション中央病院に就職し、8年後に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得。看護研究の方法論や論理的な思考を習得したいと考え修士課程に進学。職場の理解と協力を得て、勤務しながら退院支援をテーマに研究に取り組んでいる。

●印象に残った授業／看護マネジメント論

マネジメント戦略演習を通して、システムのダイナミクスと組織学習について学びました。グループに分かれてチョコレートゲーム、組織の階層とリーダーシップの取り方、折り鶴を何羽折ることができるかを競いました。効果的な戦略を練って行動すると生産性が上がることを実感し、臨床場面でも、目の前の業務に追われるのではなく、戦略を立て効果的に実践することは、結果として水準の高い看護実践に繋がることを学習しました。



修士課程 看護学研究 保健師コース 岸野 仁美さん

本学の看護学部を卒業後、修士課程看護学研究保健師コースに入学。母子保健に関心をもち、保健師として自治体で勤務することを目指している。

●印象に残った授業／ 広域実践看護学特論E(公衆衛生看護学)

地域の住民主体の介護予防のための体操グループに通い、参加者の皆様に顔を覚えていただきました。骨粗しょう症や転倒予防に関する健康講座、骨密度測定を実施し、地域に向かうことの重要性や、人に伝えることの難しさとやりがいを感じることができました。



博士後期課程 山本 孝治さん

看護専門学校卒業後、保健師養成課程を経て、総合病院に就職。糖尿病や腎臓内科系病棟で勤務した後、看護専門学校の教員に。慢性看護を探究する研究方法を学ぶため、大学院に進学。現在は慢性看護学の講師として福岡県の大学に勤めながら、博士後期課程に在籍。

●印象に残った授業／看護エビデンス特論

複数の教員が担当するオムニバス授業です。過去に実施した研究を紹介し、研究疑問の生成から、研究方法の選択、分析、結果の解釈という一連の過程を詳しく講義してくださいました。自分の研究に生かせる内容が多く、看護実践におけるエビデンスとは何かを深く考える機会となりました。

私は認定看護師としてスタッフの指導・相談を行う中で、看護研究の進め方で困っているという相談を多く受けていました。そこで、大学院で研究方法を学べば、認定看護師としての活動推進の一助となるのではないかと考え、進学を決意しました。武庫川女子大学大学院は働いている看護師を支援しているとパンフレットに記載されており、勤務と両立できると考え選びました。実際にゼミの日程は勤務日を配慮して調整してくださり、両立が可能となっています。また、大学院で様々な業務に従事している同期と出会い、視野が広がりました。モチベーションの高いメンバーで学びを深めることは、自身の学習意欲も刺激され、得るものが非常に多いと言えます。

■ 1年次後期の時間割

	日	月	火	水	木	金	土
1限							広域実践看護学特論A
2限		勤務	勤務				
3限				勤務	勤務	勤務	看護教育論
4限							
5限							看護マネジメント論
6限							
7限			生涯発達看護学特論B		広域実践看護学演習B		

私は本学の看護学部を卒業後、すぐに大学院に進学しました。保健師はすべての地域住民を対象として、健康の維持・増進に関与できることを看護学部の授業で知り、魅力的に感じました。本学の大学院を選択した理由は、1年をかけて行う家庭訪問実習等で実践能力を養えること、都市部と山間部での実習を通して地域特性に応じた健康課題を導き出す力を身につけることができると考えたからです。本コースは少人数制のため、先生から手厚いサポートを受けることができます。また、他大学出身者や看護師経験のある院生など、多様なバックグラウンドをもつ仲間と意見交換する中で様々な視点を学び、視野が広がっていると感じています。

■ 1年次前期の時間割

	日	月	火	水	木	金	土
1限			公衆衛生看護学概論		公衆衛生看護学概論	保健師養成課程特論	広域実践看護学特論
2限			公衆衛生看護学I		公衆衛生看護学概論		
3限			公衆衛生看護学I		公衆衛生看護学II		看護統計法
4限			公衆衛生看護学演習I				看護研究方法論
5限						子ども・家庭福祉学特論	栄養疫学特論
6限					広域実践看護学演習A	対人援助論	
7限							

看護実践に生かす研究を学ぶために、博士後期課程に進学しました。1年次前期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため遠隔授業でしたが、後期からは対面授業となり、福岡県から通いました。授業は看護エビデンス特論や看護理論探求特論など、どの科目も研究に役立つカリキュラムになっています。2年次にある博士論文の中間発表会や博士論文審査の公開発表会で、他の大学院生の発表を聞く機会があり、活発な質疑応答から多角的な視点を学んでいます。特に、教員の質問や意見は建設的で、よりよい研究にという熱意を感じます。博士論文ではクローン病患者のセルフケアに取り組んでいます。結果がエビデンスとなり、看護実践につながるような研究にしていきたいです。

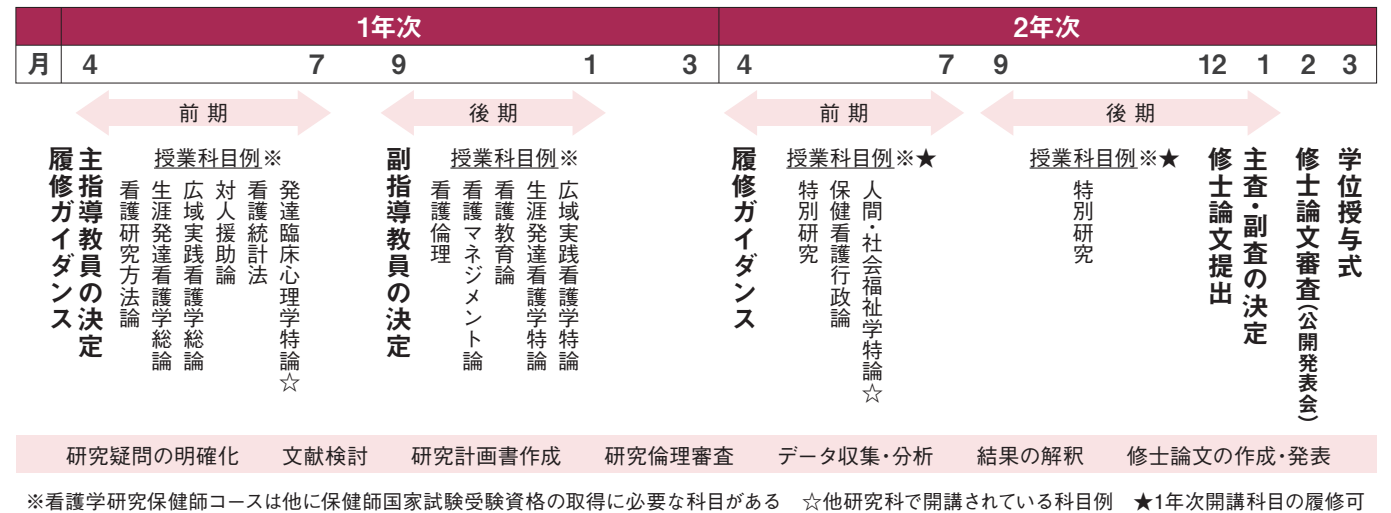
■ 1年次前期のある週*の時間割

*週により授業科目が異なる

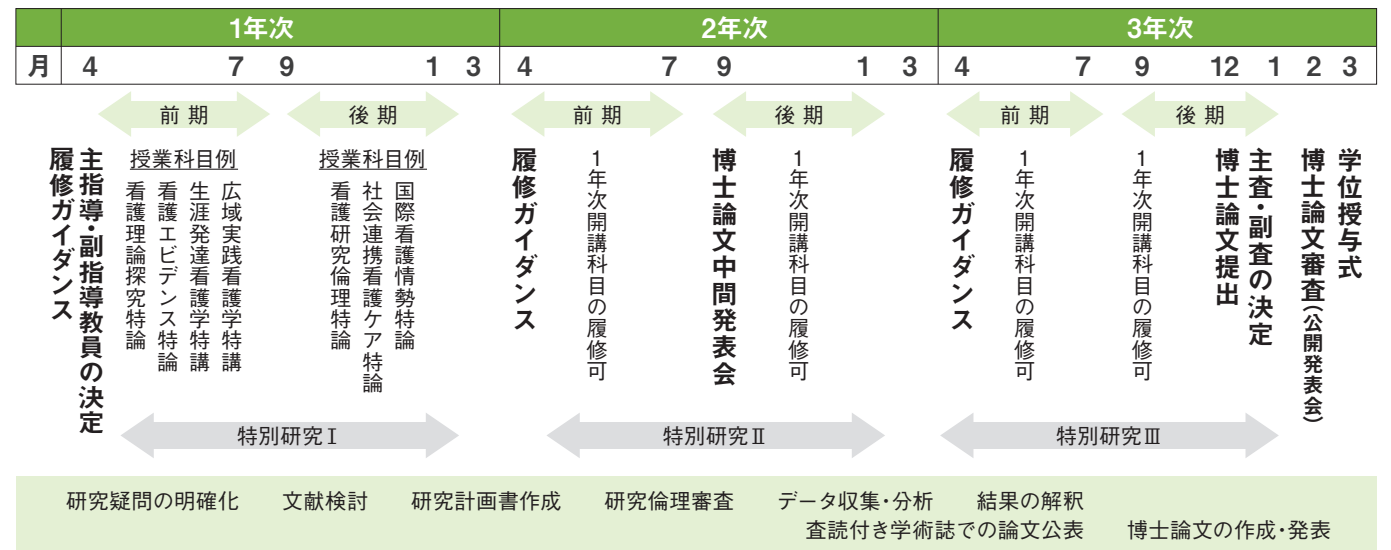
	日	月	火	水	木	金	土
1限							生涯発達看護学特講
2限				特別研究I			
3限		勤務	勤務		勤務	勤務	看護エビデンス特論
4限							
5限							
6限							
7限							

★時間割は年度により異なります。★修士課程科目「生涯発達看護学演習A・B」「広域実践看護学演習A・B」「特別研究」、博士後期課程科目「特別研究Ⅰ～Ⅲ」は担当教員によって時間割が異なります。

〔修士課程 学位取得プロセス〕



〔博士後期課程 学位取得プロセス〕



学習支援制度

◎奨学制度※

●武庫川女子大学大学院学生奨学[給付]

給付金額:当年授業料の50%相当額

●武庫川学院創立80周年記念特別奨学[給付]

給付金額:年額20万(1学年度限り)

●日本学生支援機構奨学金[貸与]

※2022年度の実施内容を記載しています。2023年度の募集内容と異なる場合があります。※いずれも書類審査があります。

◎学会活動支援制度

大学院生の研究活動を活性化し、高度な研究を推進するために、学会発表・参加等の活動に係る経費の一部を支援する制度です。

◎ラビークラブ

武庫川学院内の保育ルーム。満1歳から小学6年生までのお子様をお預かりします(有料)。事前申し込み制で、7:30~21:30の2.5時間以上の利用から受け付けています。

◎長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情で、通常の修業年限で修了することが困難な方のための制度です。標準の修業年数を超えて学び、学位を取得することが可能になります。修了までに支払う授業料は標準修業年限分と同額です。ただし、本人が申請し、審査を受けて承認される必要があります。詳細については学生募集要項をご参照ください。

◎教育訓練給付制度

修士課程は厚生労働省より雇用保険法に基づく教育訓練給付金制度(一般教育訓練)の対象講座に指定されています。受給条件を満たす場合、受講費用の20%が修了後に支給されます。



詳しく知りたい方は
コチラ



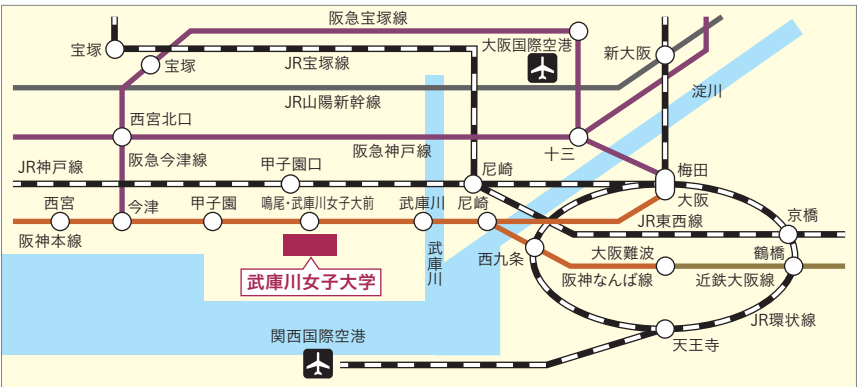
2023年度学生募集概要

課程	修士課程(修士)		博士後期課程(博士)
	看護学研究コース	看護学研究保健師コース	看護学専攻
学位・資格	修士(看護学)	修士(看護学) 保健師国家試験受験資格	博士(看護学)
標準修業年限	2年(長期履修制度あり)	2年(長期履修制度あり)	3年(長期履修制度あり)
募集人員	9人程度	6人程度	5人程度
出願資格 (抜粋のため、詳細は学生募集要項でご確認ください)	入学時点で看護師、保健師、助産師のいずれかの免許を取得している方で、 ①大学を卒業している方または2023年3月31日までに卒業見込みの方 ②2年課程の看護系短期大学または専修学校等を卒業後、看護職として2年以上の実務経験を有する方(個別の入学資格審査対象者) ③3年課程の看護系短期大学または専修学校等を卒業後、看護職として1年以上の実務経験を有する方(個別の入学資格審査対象者)		①保健師、助産師、または看護師の免許を有し、入学時点で修士の学位あるいは専門職学位を有する方または2023年3月31日までに取得見込みの方 ②査読付き学術誌に筆頭著者として発表した論文が1編以上あり、看護職として3年以上の実務経験を有し、常勤として2年以上、大学・研究所等で研究に従事した経験がある方(個別の入学資格審査対象者)
選抜方法	■一般選抜 ・面接 ・筆記試験(専門科目*:50点、英語:50点) ■社会人特別選抜 ・面接 ・筆記試験(専門科目*:50点、英語:25点) ・書類審査「看護職経験等説明書」(25点) ■推薦入試 ①本学看護学部を卒業し、入学時に看護職として3年以上の実務経験を有する方 ・面接 ・書類審査「看護職経験等説明書」、 在籍中の累積GPA(各50点) ②本学看護学部の実習施設に所属し、看護職として3年以上の実務経験を有する方 ・面接・筆記試験(専門科目*:50点) ・書類審査「看護職経験等説明書」(50点) ※専門科目:看護学の基礎的学力を問う問題	■一般選抜 ・面接 ・筆記試験(専門科目*:50点、英語:50点) ■社会人特別選抜 ・面接 ・筆記試験(専門科目*:50点、英語:25点) ・書類審査「看護職経験等説明書」(25点) ■推薦入試 対象は本学看護学部を卒業見込みの方 ・面接 ・書類審査(50点) ※専門科目:看護学の基礎的学力を問う問題	■一般選抜 ・口述試験(100点) ・筆記試験(英語:50点) ■社会人特別選抜 ・口述試験(100点) ・筆記試験(英語:25点) ・書類審査「看護実践活動調査」(25点)
入試日	前期募集: 2022年10月1日(土) 後期募集: 2023年2月12日(日) 推薦入試も同日に実施	推薦入試: 2022年6月4日(土) 前期募集: 2022年10月1日(土) 後期募集: 2023年2月12日(日)	前期募集: 2022年10月1日(土) 後期募集: 2023年2月12日(日)
納入金 (2022年度入学生分)	入学金: 28万円 授業料: 54.5万円 教育充実費: 10.5万円	入学金: 28万円 授業料: 70万円 教育充実費: 20万円 実験実習費: 1.6万円	入学金: 28万円 授業料: 60.5万円 教育充実費: 12.9万円

*詳細は「2023年度武庫川女子大学大学院 大学院要覧・学生募集要項」または看護学研究科HPをご覧ください。

- オープンキャンパス 6 / 25 (±) 会場(武庫川女子大学)・WEB同時開催
- 進路相談会 10 / 22 (±) WEB開催

相談・見学は随時受付



武庫川女子大学
武庫川女子大学大学院
看護学研究科 看護学専攻
修士課程・博士後期課程

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
TEL.0798-45-3500(入試センター直通)
看護学研究科ホームページ
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kango/>

